**平成30年度高岡市一般会計・特別会計歳入歳出決算**

**及び基金運用状況の審査意見**

第１　審 査 の 対 象

**１　各会計の歳入歳出決算**

平成30年度　高岡市一般会計

平成30年度　高岡市国民健康保険事業会計

平成30年度　高岡市荻布奨学金事業会計

平成30年度　高岡市駐車場事業会計

平成30年度　高岡市工業団地造成事業会計

平成30年度　高岡市介護保険事業会計

平成30年度　高岡市後期高齢者医療事業会計

上記各会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書

**２　各基金の運用状況**

平成30年度　高岡市高額療養費貸付基金

平成30年度　高岡市美術館美術品取得基金

平成30年度　高岡市土地開発基金

　　　　　上記各基金の運用状況に関する調書

第２　審 査 の 期 間

　　　　令和元年７月26日から令和元年８月９日まで

第３　審 査 の 方 法

審査に当たっては、各会計の歳入歳出決算書及び附属書類が、関係法令に準拠して作成され、計数が正確であり、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係職員から決算についての説明を

聴取するなどの方法により実施した。

　また、基金の運用状況を示す書類の計数についても関係諸帳簿と照合した。

第４　審 査 の 結 果

審査に付された各会計の歳入歳出決算書及び附属書類は、いずれも関係法令の規定に準拠して作成され、その計数は関係諸帳簿と符合し正確であり、予算執行及び会計処理は適正であると認められた。

　また、基金の計数は正確であり、設置目的に従い適正に運用されていると認められた。

なお、各会計別の予算執行状況及び財政状態並びに基金の運用状況に関する資料は、決算の概要等のとおりである。

第５　審 査 の 意 見

平成30年度の一般会計と特別会計を合わせた総計決算額は、歳入が110,001,625千円、歳出が107,818,046千円で、歳入歳出差引額(形式収支)は2,183,579千円となり、 前年度に比べ歳入で13,473,119千円(△10.9％)、歳出で14,019,238千円(△11.5％)とそれぞれ前年度の決算額を下回っている。

一般会計は、歳入が72,698,877千円(前年度比△11.1％)、歳出が70,735,943千円(前年度比△12.8％)で、形式収支は1,962,934千円となり、これから翌年度へ繰り越すべき財源204,428千円を差し引いた実質収支は1,758,506千円となっている。

この実質収支から前年度実質収支419,097千円を差し引いた当年度の単年度収支に財政調整基金積立金100千円と繰上償還金394,034千円を加えた実質単年度収支は1,733,543千円の黒字となっている。

歳入全体の35.7％を占める市税は25,961,173千円で、前年度に比べ54,265千円(0.2％)増加している。これは主に、固定資産税が土地・家屋の評価替えにより144,989千円(△1.1％)減少したものの、個人市民税は給与収入の増額により182,950千円(2.1％)増加したことによるものである。

市税収納率は95.4％で、前年度に比べ0.3ポイント上昇し、収入未済額については52,746千円(△4.3％)減少している。これは、「市税納付お知らせセンター」による初期未納者への電話催告等の収納率向上対策に取り組まれた成果と思われる。

今後とも自主財源の確保を図るため、納付環境の整備・充実はもとより、納税相談等の推進に努められるとともに、滞納者に対する滞納処分を継続的に実施し、収入未済額のさらなる縮減を望むものである。

歳入全体の15.2％を占める市債の発行額は11,058,300千円で、前年度に比べ7,349,762千円(△39.9％)減少している。このうち、借換債4,066,300千円を除いた額は6,992,000千円で、前年度に比べ2,384,200千円（△25.4％）減少している。これは主に、下伏間江福田線等の街路事業債等が増加したものの、志貴野中学校校舎改築等の学校建設事業債、新牧野保育園（仮称）建設事業債、矢田市営住宅建替事業債等が事業の完了に伴い減少したことによるものである。また、本年度末の一般会計の市債現在高は111,152,413千円となり、前年度末に比べ1,712,590千円(△1.5％)減少している。

歳入を財源別構成でみると、市税等の自主財源は48.3％で、前年度に比べ

646,940千円(△1.8％)減少している。一方、地方交付税等の依存財源は51.7％で、

前年度に比べ8,384,458千円(△18.2％)減少し、依存財源の比率は4.6ポイント低下している。

次に、歳出を性質別にみると、義務的経費は歳出全体の51.0％を占め、前年度に比べ6,759,088千円（△15.8％）減少している。これは主に、公債費が13,525,219千円で、前年度に比べ5,672,044千円（△29.5％）減少したことによるものである。このうち、借換債の発行に伴う元金償還額4,066,300千円を除いた額は9,458,919千円で、前年度に比べ706,482千円（△6.9％）減少している。公債費の減少の主な要因は、借換債発行額の減少と借換えによる元金償還額の平準化により、長期債の元金償還が減少したことによるものである。

また、投資的経費は前年度に比べ1,897,423千円(△18.0％)減少し、歳出全体に

占める割合は12.2％で、0.8ポイント低下している。これは主に、県営事業負担金等が増加したものの、補助事業で志貴野中学校校舎改築事業費、（仮称）道の駅雨晴整備事業費及び矢田市営住宅建替事業費が事業の完了などにより減少したことによるものである。

　普通会計における財政状況を示す指数・比率については、財政力指数が前年度と同数の0.75であり、経常一般財源等比率が99.1％（前年度比0.1ポイント)と上昇し、経常収支比率が87.4％（前年度比△6.3ポイント）、実質公債費比率が14.7％(前年度比△1.5ポイント)とそれぞれ低下しており、前年度に比べ改善していることがうかがえる。

今後とも市債については、将来にわたる償還額や残高を意識しながら抑制に努め適切に管理されたい。

次に、特別会計の決算状況をみると、６会計の形式収支は220,645千円となり、

これから工業団地造成事業会計の翌年度へ繰り越すべき財源72千円を差し引いた実質収支は220,573千円となっている。各特別会計の実質収支は、国民健康保険事業会計、介護保険事業会計及び後期高齢者医療事業会計の３会計で黒字となっており、それぞれ全額翌年度へ繰り越されている。また、荻布奨学金事業会計、駐車場事業会計及び工業団地造成事業会計の３会計は収支同額となっている。

　平成30年度は、「高岡市総合計画第３次基本計画」の２年目として、選択と集中を進め、「まち」「ひと」「しごと」づくりに重点を置いた戦略的な施策展開と「とやま呉西圏域連携中枢都市圏」の各市が持つそれぞれの個性・特性を活かした連携事業の推進に努められた年であった。一方で、平成30年度から５年間かけて取り組む「高岡市財政健全化緊急プログラム」の１年目として、ゼロベースの視点で全ての事務事業を点検し、当該プログラムに掲げる投資的経費の抑制、公債費の平準化、施設管理コストの縮減、事務事業の見直しなど財政構造の体質改善に徹底して取り組まれた年でもあった。

しかしながら、今後も少子高齢社会の進展に伴う扶助費の負担に加え、北陸新幹線等の大型事業に係る市債の償還、公共施設の管理費等の増加により、構造的な歳出超過が見込まれることから、引き続き厳しい財政状況が続くものと思われる。

このことから、今後の市政運営に当たっては、「高岡市財政健全化緊急プログラム」に基づき、持続可能な財政運営の確立に努めるとともに、総合計画に掲げる「豊かな自然と歴史・文化につつまれ、人と人がつながる市民創造都市　高岡」の実現に取り組まれたい。